

自然体験イベント事故情報

事故名	熱中症の症状	被災者	年齢 60歳台	性別 男性
事故状況	発生日時 平成 27 年 7 月 27 日 (日) 午前 10 時 30 分頃			
	発生場所 河川敷			
	事故状況 (何をして、どのように、どうなった) オギ原に入って、調査を始めて、約 1 時間後、(4 つの実験区のうちの一つ目) A ゾーンが終了して、オギ原から出てきたところ、息が上がるという状態になった。 ハーハーゼーゼーとかなり息苦しくなって、やや頭もボーッとしました。			
事故処置	誰が、どのように処置 河川敷のため木陰などはないので、車に入り冷房をかけてしばらく休憩をした。 1 時間もしないうちに呼吸は正常に戻り、しんどい状態は抜けた。			
	ケガの部位・症状 呼吸困難のように見えた。 熱中症の初期状態でもなかったが。(Net で見たが熱中症の初期症状には該当する症状は見当たらないが・・・)			
	推定原因と再発防止策は このようなトラブルは、本人にとっても初めての経験である。 特に、体調不良でも前日無理をしていたわけでもないのに、原因の推定は難しいと言わざるを得ない。 年齢と夏場の過酷な天候であれば、だれでも起こりうるかもしれない。 (当日の京都市の最高気温 : 35.6℃ = 13 : 40) 早期の対応が被害を拡大せず、良かったと考える。			
総務部コメント	体調が変調したときは、我慢せずに周囲に伝え、早期の対応をすれば症状が悪化しないことになる。という事例であった。			